

経済学部及び法学部への外国人留学生対象

## 2009年度後期民法第二部試験問題

2010年1月29日

次のⅠⅡの両方の問題に答えなさい。解答の順番は問いません。配点は一応の目安で調整を経て最終得点とします。

**I** XはAから、A所有の100坪の土地甲の南東角の30坪乙を2400万円で買い受け、代金を支払って引渡しも受けた。しかし、乙を甲から分筆する手続に手間取ったため、Xへの移転登記はされていなかった。

問(1) この時点で乙に自家用車を常時無断で駐車しているYがいる場合、XはYに対して、無断使用をやめるよう請求できるか。理由を付して述べなさい(30点)。

その後、Aは、甲100坪丸ごとなら相場以上の1坪あたり100万円で買っても良いというZの申出を受けた。ZはAがXに甲の一部を売ったのを知っていたが、登記は甲の一筆のままになっていたため、まだ甲全体の所有権はAに残っていると考えた。欲に目がくらんだAは、Zに甲を1億円で売り、Zへの移転登記をしてしまった。

問(2) この場合のXとZの法律関係がどうなるか説明しなさい(30点)。

**II** 次のうち2つを選んで説明しなさい。各説明は5～10行程度を目安として書いて下さい(20点×2)。3つ以上解答すれば全部無効として採点しませんので、よく考えて選んでから解答して下さい。

- (1) 公示の原則と公信の原則
- (2) 中間省略登記
- (3) 抵当権に基づく賃料債権への物上代位
- (4) 根抵当権の特徴とそれが抵当権とは別に必要となった理由
- (5) 非典型担保とその特色